

## 第4章 まちづくりの課題

### 4-1 まちの変化要因

都市の変化要因については、平成16年の時点修正以降、事業の推進により完了となった事業、事業化された構想、計画があります。また、社会・経済情勢の変化により、事業内容が見直され廃止になった事業及び構想、計画があります。

本市のまちづくりにあたって、変化要因として考慮すべき各種事業の構想、計画や推進中の事業は以下のとおりです。

#### ① 都市整備

- ◆ 下益見土地区画整理事業

#### ② 産業基盤整備

- ◆ 東濃学園研究都市構想

#### ③ 都市施設整備

- ◆ 市民公園再整備事業
- ◆ 土岐川護岸整備
- ◆ 中学校学区再編に伴う施設整備

#### ④ 道路整備

- ◆ 瑞浪恵那道路
- ◆ 東濃西部都市間連絡道路

**4-2 まちづくりの課題****① 安心・快適で個性豊かな都市環境の創造**

本市の市街地における基盤整備は概ね完了していますが、人口の減少や住宅需要の落ち込みなど、地域活力が失われつつあり、より暮らしやすい生活環境の確保が課題となっています。JR瑞浪駅周辺では、(都)公園線や駅前広場などの整備が完了するなど本市の中心部として機能強化が進んでおり、今後も魅力ある中心市街地として活性化を図る必要があります。一方で、その周辺では、用途地域内の農地など低未利用地が残っており、適正な土地利用の誘導により、良好な居住環境を確保していくことが必要です。

市内に点在する集落地においては、高齢化や過疎化に伴う地域活力の低下への対策が喫緊の課題となっており、地域の特性を踏まえた適正な土地利用の誘導と基盤整備による快適で暮らしやすい生活環境の確保が必要です。

また、学校においては少子化による児童および生徒の急速な減少が進んでおり、中学校では学校規模の縮小に伴い教育環境・条件等が制限されることが予想されます。今後は、地域住民の意向を踏まえながら中学校の学区再編を進めていく必要があります。

さらに、都市全体において快適な生活の向上と防災機能の強化を図るべく、利用しやすい都市公園の適正な配置、河川や生活道路の整備を進めていく必要があります。

**安心・快適で個性豊かな  
都市環境の創造**

- 魅力ある JR 瑞浪駅周辺地区の創出
- 市街地内の適正な土地利用の誘導
- 集落地における生活環境の確保
- 中学校の学区再編
- 快適で災害にも強い都市環境づくり

## ② 圏域ネットワークの強化と交通網の充実

本市は、中央自動車道瑞浪インターチェンジや国道 19 号、JR 中央本線瑞浪駅・釜戸駅が位置しており、名古屋や信州方面との広域的な交通アクセスに恵まれています。本市を含む東濃圏域や本市内の交通網については十分なネットワークが確保されていません。

東濃圏域においては、圏域内の各機能の連携強化を図るネットワークの確保による一体的な都市圏づくりを進めていく必要があります。

また、本市内においては、インターガーデンや瑞浪クリエイション・パークといった新機能導入にあわせた幹線道路の整備が順次進められてきましたが、市域が一体となった発展を図るためには、市の中心部と市内各地域の連絡性を強化する幹線道路や、地域のニーズに沿った生活道路の整備を行うことにより、市内交通網をより一層充実させる必要があります。

交通施設については、コミュニティバス等、地域住民の交通手段の利便性を向上させるとともに、中学校区再編においては、生徒の通学手段を確保するための条件整備を検討する必要があります。

### 圏域ネットワークの強化と 交通網の充実

- 東濃圏域内の都市間連絡の強化
- 市の中心部と市内各地域の連絡性の強化
- 市内に点在する観光交流施設の有機的なネットワークの確保

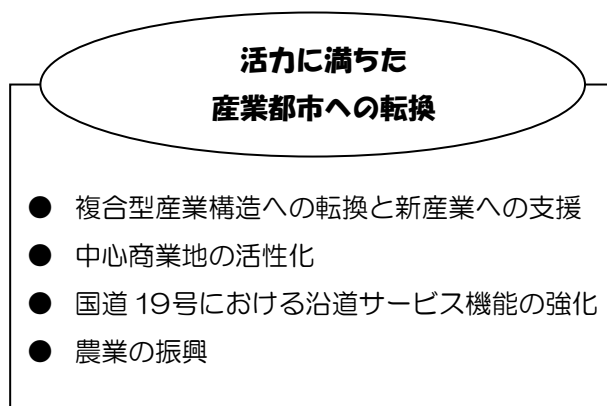
### ③ 活気に満ちた産業都市への転換

本市では、これまで地場産業である窯業・土石業中心の産業構造を示してきましたが、陶磁器産業をはじめとする各種の産業が非常に厳しい状況にあり、市内の若者は働く場所を求めて市外へ流出していく傾向にあります。

そのため、伝統的産業としての陶磁器産業の活性化を図るとともに、瑞浪クリエイション・パークやインターガーデンなどにおける先端技術産業・研究開発機関の充実による「複合型産業構造への転換と新産業への支援」を進める必要があります。

一方、商業機能については、JR瑞浪駅周辺における中心商業地の活性化や国道19号における沿道サービス施設の集積強化により、魅力的な商業環境を創出し、都市間競争への対応を図っていく必要があります。また、市民公園や市内各地域に点在する観光交流施設における基盤の強化（アクセス性の強化、駐車場等の整備および公共交通輸送の確保）による交流人口の拡大を図ることも課題です。

農業については、従事者の高齢化や後継者不足などにより、耕作放棄地が増加しています。優良農地の確保のため、農業生産基盤整備を促進するとともに、営農組合など生産組織の担い手の育成、特産物の開発と定着、地産地消を推進し、新たな流通ルートを確立するなど、本市にあった施策を展開していく必要があります。



#### ④ 自然・歴史的伝統文化の保全・活用

本市は市域の7割が森林であり、優れた自然環境を有しているほか、飛騨木曾川国定公園や竜吟峡などの景勝地、歴史的伝統資源である中山道細久手宿・大湫宿といった、自然・歴史的伝統文化に恵まれています。その他、土岐川周辺の憩いの場としての整備など、自然を活用した新たな交流施設の整備が進められています。

水源や防災、環境保全など多面的な機能を持つ森林の保全を図るとともに、地域活性化や参加型まちづくりをより一層推進するために、恵まれた自然・歴史環境の積極的な保全・活用によるゆとりとうるおいのある魅力的なまちづくり、および交流人口の拡大を目指していくことが必要です。

#### 自然・歴史伝統文化の 保全・活用

- 自然環境の保全と活用
- 市内各地域における自然・歴史的伝統文化をいかした観光交流施設の整備
- ゆとりとうるおいのある魅力的なまちづくり
- 交流人口の拡大による地域の活性化

